

AIが花を見分け

406種 深層学習 Area I に新展示

NEWS CIT

2017
5.15
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 小松崎さんベストプレゼン賞 / 坂本研がRNAアプタマー濃縮過程を解析 / 志賀さん学術奨励講演賞 / 長瀬教授、佐波教授にフェロー称号 / 名誉教授に4氏
- 3面 御宿でロケット燃焼実験 / 赤澤研が立山の特産包む風呂敷 / 千葉工大創立75周年
- 4面 平成29年度予算案を承認 / 29年度予算の概要
- 5面 出版案内 / 中国3大学から留学20周年同窓会 / 訃報 / 校友「八鳥佐内さん」
- 6面 新任紹介



㊤ 花の種類を識別する「hananona」
㊦ Halluc IIの輪切りが見られる「ロボット解剖学」

東京スカイツリータウンキャンパスのArea I (ロボット技術ゾーン)に4月6日、人工知能・ソフトウェア技術研究センター(STAIR Lab)が開発した人工知能(AI)で花を識別する「hananona (ハナノナ)」が新しく加わった。また、世界最大級の可搬重量性能を持つ大型2足歩行ロボット「core」や未来の乗り物のコンセプトモデル「Halluc II」などが新たに展示された。

「hananona」は人工知能が大量の訓練データと深層学習によって獲得した分類能力を可視化する体験型のシステム。テーブル上に置かれ



「Halluc II」



2足歩行ロボット「core」

クールビス実施中



5月1日～9月30日

「花マップ」は、人工知能が約30万枚の花の写真学習した結果を可視化したもの。406種類の花を分類する。カメラで撮影された画像がバラバラに分解されてディスプレイに吸い込まれていくという演出で作られた動画が見学者の興味を誘っている。

「花マップ」は、人工知能が約30万枚の花の写真学習した結果を可視化したもの。406種類の花を分類する。カメラで撮影された画像がバラバラに分解されてディスプレイに吸い込まれていくという演出で作られた動画が見学者の興味を誘っている。

人工知能を使った画像認識の技術は急速に進歩している。例えば船や食器、消防士、動物といった雑多な大きささまざまの物の画像を高い精度で解析して花の種類を判定。その結果が正面にあるディスプレイ上の「花マップ」に表示される。

超重量2足coreや輪切りHalluc IIも

Area Iにこのほか新たに登場したのは「core」「ロボット解剖学」「Halluc II」の3コーナー。

「core」は重さ100kgの物を載せて、平坦な床面や段差・階段がある場所などを踏破できる全長1.9m、体重230kgの大型・超重量級の2足歩行ロボット。左右の足を構成する6つの関節には、未来ロボット技術研究センター(fuRo)が独自に開発したモーターや電磁ブレーキ、絶対角度センサーからなる大型モーターシステムが、足裏部には床からの衝撃を大幅に軽減することできる衝撃吸収機構が搭載されている。

「ガンダム」シリーズなどに登場する、人が乗って操縦する巨大なヒト型ロボットのベースに見立てて「core」の動きを見るのも楽しい。「ロボット解剖学」は、展示されている「Halluc II」をロボットアームの先端に取り付

これらの性能をさらにグレードアップし、ジェスチャー認識による操作もできるようにしたHalluc IIの動きは、展示コーナーに設置されたモニターの画面で見ることが出来る。

オープンキャンパス2017

OPEN CAMPUS

6/18(日) 10:00-18:00

開催予定イベント

- ★企業説明会、卒業生講演
- ★入試ガイダンス
- ★模擬授業体験
- ★学内見学(学内ツアー)
- ★学生生活体験(寮生活体験)
- ★お楽しみ抽選会
- ★お楽しみプレゼント
- ★お楽しみクイズ大会

千葉工業大学

小松崎さんベストプレゼン賞

▲ 破裂発生寿命の新たな予測式を提案

日本機械学会関東支部 発表講演会(3月16日、第56回学生員卒業研究 東京都葛飾区の東京理科



小松崎悟さん

大・葛飾キャンパスで開催)で、小松崎悟さん(受賞時機械サイエンス学科4年、緒方隆志研究室)が「Cr-Mn鍛鋼環状切欠き試験片のクリープ破断強度」を発表し、「Best Presentation Award」を受賞した。緒方教授の研究室は、機械社会を支える金属材料の強度評価、損傷機構の解析、寿命評価法の開発などをしている。例えば、火力発電所で働く高温機

器には信頼性の維持が欠かせない。高温のもと、蒸気タービンローターの応力集中部に応力が作用し続けると、材料が使用中に損傷することがある。クリープ損傷といわれる。小松崎さんは「受賞するとは――。大変うれいですが、何より共に研究をして来た仲間たち、丁寧な指導をいただいた緒方先生に感謝の気持ちでいっぱいです」と語った。

志賀さん 学術奨励講演賞

▼ 成膜技術と反応過程解析を発表



志賀拓也さん

表面技術協会の第135回講演大会(3月9、10日、埼玉県川越市の東洋大・川越キャンパスで開催)で、機械サイエンス学科の志賀拓也さん(受賞時4年・井上泰志

法による反応過程解析」を発表し、第23回学術奨励講演賞を受賞した。井上教授の研究室では、先端技術を使って新奇物質を創成し、その構造や物性の評価、工業的応用を探っている。志賀さんは「ポスターを見る立場になって、グラフや図表のレイアウトを工夫しました。大変光栄です」と感想を語った。

信号遅延を防ぐ超低誘電性を実現する新材料として期待を集めている。志賀さんらは薄膜形成技術の一つであるICP-PCVD法(誘導結合型プラズマ化学気相蒸着)を使って、成膜過程を直接観察し、綿密に解析。その技術や発表ぶりが評価された。志賀さんは「ポスターを見る立場になって、グラフや図表のレイアウトを工夫しました。大変光栄です」と感想を語った。

など生体高分子の立体構造を解明、デザインにつなげて環境・医療などに役立てたいと研究している。

坂本教授は、「粘り強く研究を進めてくれた大学院生と大学のサポートに感謝したい。今後も、病気で苦しんでいる人のためにも、アプタマー医薬品の開発に貢献したい」と話している。

この成果は、シュプリンガー・ネイチャー発行の学術誌サイエントフィック・リポーツ(3月21日付)に掲載された。

10種類のランダムな配列の核酸フルを作成した後、その核酸フルの中から標的分子に結合する配列の選別と増幅を繰り返すことで、標的分子に非常に強く特異的に結合するアプタマーを得る。

長瀬教授は「機械屋の私が電子情報通信学会から称号をいただき感慨深いものがあります。ご指導いただいた先輩研究者や研究室院生、学部生らのおかげです。称号にふさわしい社会貢献が果たせるよう努めます」。

佐波教授は「大変光栄に思っています。多くの経験者からいただいた諸先輩方に感謝しています。今後も称号の名に恥じないよう努めます」とコメントを寄せた。

RNAアプタマー濃縮過程を解析

世界初

次世代型分子標的薬として注目されるアプタマー医薬品の開発について、本学生命科学科の坂本泰一教授、河合剛太教授、工学専攻博士後期課程3年の天野亮さん(現・東京大医科学研究所)らは3月21日、アプタマー創薬会社(株)リボミックと共同で、RNAアプタマーが濃縮される過程を核磁気共鳴分光法(NMR法(注1))でモニタリングすることに世界で初めて成功したと発表した。



坂本泰一教授(左)と天野亮さん

アプタマーは、標的分子を認識して強く結合する核酸だが、目的のアプタマーを得るSELEX実験(注2)は従来、研究者の勘や熟練度に頼るところが大きかった。坂本

教授らの手法を使えば、望み性質のアプタマーを取り出しやすくなり、医薬品開発が促進されると期待される。バイオ医薬品はこれまで、遺伝子組み換え技術などを応用して動物細胞や大腸菌に治療に有用なたんぱく質を作らせる細

胞培養方法を取り、糖尿病治療のインスリンやC型肝炎用のインターフェロンのほか種々の抗体医薬品を生み出してきた。一方、アプタマー医薬品は化学合成で大量生産が可能。細胞培養に比べて安価に安定して医薬品を生産できるため「次世代型」といわれる。すでに加齢黄斑変性症の治療で成功している。

リボミックと千葉工大チームは10年以上、アプタマー医薬品開発の基礎的手法を追究してきた。坂本教授、河合教授は、たんぱく質やRNA

(注1)核磁気共鳴分光法(NMR法) 原子核(炭素や水素)と磁場の間に起る核磁気共鳴を利用して、分子の構造や運動状態などの性質を分析する方法。

(注2)SELEX実験

長瀬教授、佐波教授に「フェロー」称号授与

電子情報通信学会



長瀬亮教授



佐波孝彦教授

機械電子創成工学科の長瀬亮教授、情報工学科の佐波孝彦教授の2人が3月24日、電子情報通信学会(IEICE)から、「フェロー」の称号を授与された。

長瀬教授の専門は光ファイバー応用技術で、光通信技術の初期から通信用光コネクタの研究開発に携わり、基盤技術の確立や標準化に貢献。開発した光コネクタは世界の光通信ネットワーク



小泉 俊雄氏



依田十久子氏



荻林 成章氏



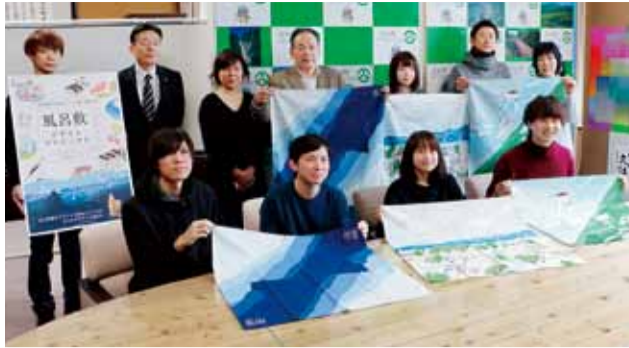
五百井俊宏氏

名誉教授に4氏

千葉工大で長年、教育・研究に尽くし学術の向上に寄与した4氏に対し、本学は4月26日付で

千葉工業大学名誉教授の称号を授与した。新たに名誉教授となったのは元建築都市環境学

依田十久子氏▽元経営情報科学科教授の荻林成章氏▽元プロジェクトマネージャメント学科教授の五百井俊宏氏。



フィールドワークを通して作り上げた立山町の風呂敷



ワークショップでアイデアを出し合う

北アルプス

立山の特産包む風呂敷

▼赤澤研学生らがデザイン

デザイン科学科・赤澤 立山黒部アルペンルート 町の委託を受けてデザインした風呂敷が地元で高

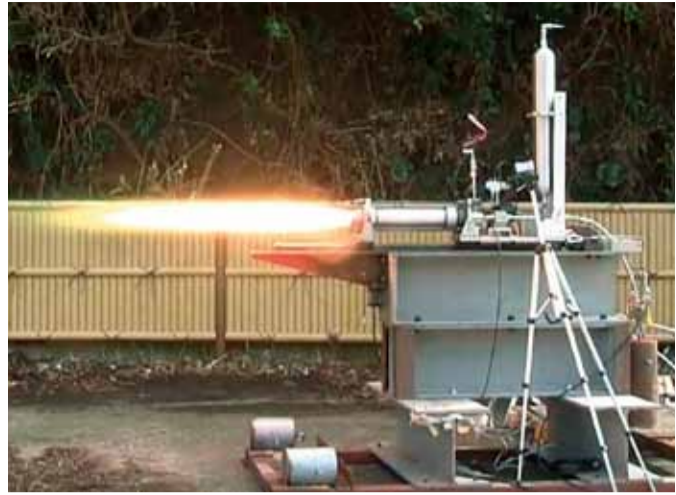
い評価を受けている。この風呂敷づくりは、立山町の特産品を統一したデザインの風呂敷で包むことで、お土産を買う観光客に「立山」をもっと強く印象づけたいと町役場が企画。赤澤研の小田彩花さん(現修一十一年)を中心に学生と町民、町役場の職員、富山北部高校生らの混成3グループをつくりそれぞれ2案ずつ発表、そのうち3案が製造された。

小田さんは、立山町の方々の思いが表現された風呂敷となるよう方法について検討を重ね、昨年11月から12月にかけて現地で3回のワークショップを設計、実施した。ここで得られた町民らによるコンセプトボードを



赤澤研では、立山町の特産品の一つ、西洋梨のジュース(商品名「ラフランス」)ストリートジュース(「の瓶のラベルデザイン」)の試作も行った。昨年年度の3年生と4年生約10人が参加。摘果や袋がけなどの農作業の紹介や、ラベルの両面を使ったデザイン、アルペンルートの駅ごとに異なるラベルの瓶を置く案など10数案を、3月15日に風呂敷きと併せてお披露目したII写真。

同年ラフランスが不作だったため製造に至らず、実施デザイン案は次年度に持ち越された。フィールドワークを通して現物や現場を知り作品を練って完成させるという立山町でのこれらの活動は、学生にとって学内の座学では得られない貴重な体験となっている。



激しく炎を吹き出し順調に燃焼するロケットエンジン

低融点のプラスチックを燃料とする観測ロケットを高度1000mに打ち上げるプロジェクトに挑んでいる惑星探査研究センター(PERC)・和田豊非常勤上席研究員(機械電子創成工学科准教授)のチームが3月29日、千葉県御宿町で小型ロケットエンジンの騒音環境負荷を調べる燃焼実験を行い、成功した。



ハイブリッドエンジン

隣の家などに与える影響を調べるのが目的だ。実験に使用したのは昨年7月、伊豆大島での打ち上げ実験でマッハ1.2での飛行に成功した小型観測ロケットに搭載したのと同じハイブリッドエンジン。約5秒間の燃焼で、最も近い約200m離れた民家で計測された騒音は78デシベルと、人の大声での会話と同レベルだった。

和田准教授は「爆音が周囲の崖に反射して、海や空に逃げていくためだ」と思う。この場所なら安全性も確保できるので、高度1000mを目指すロケットの開発過程で必要となる多くの実験を長期にわたってできるように整備していきたい」と話している。

また、機械工学と電子工学の融合を目指す機械電子創成工学科の特色を生かして、学生が主体のイベントを同町の広大な海水浴場で開催する構想も描いているという。

町おこしにも一役 本学と御宿町は2014年6月に包括連携協定を締結。このロケット実験場の整備にも町は全面協力の意向を示している。そこで同町の名物行事「伊勢ひび祭り」(9月1日〜10月31日)が最高潮となる10月1日、岩和田の実験場から小型ロケット(全長1.5〜2m、到達高度500〜900m)の打ち上げを行う予定。このデモ

を「宇宙実験もできる御宿町」と観光客にアピールする恒例行事として、町おこしにも一役買いたい考えた。



75th Anniversary

2017年 千葉工業大学 創立75周年

1942年の本学創立から75周年となる5月15日、教職員感謝の集いが東京都内のホテルで開かれた。瀬戸熊修理事長は冒頭のあいさつで「理事長として26年間本学を導き、今日の発展への道筋をつけたら豊田耕作先生が亡くなって今年で5年。本日の75周年節目に、千葉工大はこれからも80年、90年、100年と大きな夢を抱いて歴史を刻んでいかなければなりません。教職員の皆さんには一致団結し、さらなる発展に向けて協力していただきたい」と呼びかけた。

続いて、本学の創立に尽力した小原國芳翁の孫で、来賓として出席した小原芳明玉川学園理事長が「75周年を迎えた千葉工大の今日

の隆盛ぶりを見て、祖父もさぞかし喜んでることだろうと思います」と、お祝いの言葉を述べた。

また、お祝いに駆け付けたジャーナリストの櫻井よしこさんは「日本は21世紀、本当の意味の世界のリーダーになるべきだと私は思っています。その先頭に千葉工大の皆さま方は立っていただきたい」とエールを送った。このあと小宮一仁学長の音頭で乾杯し、歓談した。

会場には小原國芳翁が、多くの夢を持ってほしいと願って書いた、夕の部分が一画多い「夢」の文字II右上IIが飾られ、教職員らは改めて千葉工大75年の歴史に思いを馳せていた。

千葉工業大学 平成29年度予算

平成29年度予算案を承認

3月28日、東京ガーデンパレスで開かれた本学理事会・評議員会で、平成29年度予算案が承認された。

高等教育を取り巻く環境

国内では、現政権による積極的な経済政策が引き続き実施され、企業収益は高水準を維持している。一方で円安や原油高により個人消費の低迷が長期化しており、アメリカ新大統領の保護主義政策が実施されれば、ゆるやかな回復基調にある日本経済へのマイナス影響

が懸念される。消費税の引き上げを2年半延期したことにより、プライマリーバランスの平成32年度黒字化の目標達成も暗雲が立ち込めており、社会保障費の抑制など、将来に向けた大きな課題が山積している。

これらを踏まえ、文部科学省はグローバル化、産業界・地域と大学の連携、社会貢献、教育の質的転換など、大学に求める社会的役割を明確に示し、各大学の取り組みを支援している。また、高大接続改革を推進しており、大学入試センター試験に代わる「高等学校基礎学力テスト(仮称)」や「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入に向けて準備を進めている。

創設75周年を迎える今年度は、創立100年に向けての取り組みをさらに積極的に実行していく。昨年4月に新設した工学部6学科、創造工学部3学科、先進工学部3学科を軌道に乗せ、教育目標を達成すべく、引き続き教育改革に取り組みを進めている。これまでのさまざまな教育支援策によって、退学者・留学者の抑

制は着実に進んでおり、進路状況は雇用環境の改善もあり、進路決定率も上昇している。未来ロボット技術研究センターでは、大手建設会社と共同で狭隘な天井裏の空間を調査可能な小型かつ軽量の天井裏点検ロボット「CHERRI」を開発した。惑星探査研究センターでは、宇宙からの流星観測を行う「ISS流星観測プロジェクトMETEOR」が始動したほか、成層圏微生物採集実験を実施するなど積極的に活動している。本学の一般入試志願者

動向は、工学部改組、教育研究体制の充実、入試制度の改革、積極的な広報展開、キャンパス再開などの取り組みによって引き続き回復基調にある。平成29年度入試試験では過去最高となった昨年度をやや下回ったものの、志願者総数では全国9位となった。

1 教育・研究 昨年度に引き続き、教職協働により、教育・研究の質の向上を推進し、退学者・留学者の抑制、大学院進学者及び編入学

者の増加に務める。平成28年3月の学校教育法施行規則の改正により、大学はその教育研究上の目的を踏まえ、「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受け入れの方針」(アドミッション・ポリシー)を一貫性あるものとして策定し公表することが義務付けられ、平成29年4月1日より施行される。

工学部の改組に伴い抜本的な見直しを行った新たな教育課程については、中央教育審議会答申等で示された学十力の養成、すなわち知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合力・創造力

を養うことを念頭に、能動的学修(アクティブラーニング)やインターンシップなど主体的な学びも多く取り入れて構成されており、教養教育・専門教育を通じて教育課程の体系化、単位の実質化を実現している。

教育方法の改善については、「FDフォーラム」、「FD講演会」を開催するなど、FD(ファカルティ・ディベロップメント)の継続的な推進を図る。さらに、SD(スタッフ・ディベロップメント)研修への教員参加を拡大し、教職協働による教育支援体制を拡充する。

また、グッドレクチャー賞やベストティーチャー賞といった教育業績表彰制度を設けており、教

育改善に対する教員の工夫・努力を適切に評価する体制を整備することも、全教員を対象とした教育方法の講習会等も引き続き実施する。

指定校推薦入学制度の導入による工業高等専門学校との連携強化により、学部3年次の編入学者の数は1年で3倍に増加したが、引き続き指定校数の増加に務める。さらに高大接続の教育連携についても引き続き検討し、具現化に向けた施策を実施する。

大学院においては、本学附属の各研究所等と連携した教育・研究体制を充実させるとともに、留

留学者や退学者の抑制策については、追加的な補習授業の実施や再試験制度及び仮進級制度を導入し効果をあげている。

平成28年度に本学がタイムズ・ハイヤー・エデュケーション世界大学ランキング2016・17で初めてランキンし、国際化を進めるうえで重要な要因となる客観的な評価を得ることができた。今後も海外大学との交流協定を積極的に拡大し、留学生の受け入れ及び本学学生の海外留学とともに増加させる。さらに「小川勉国際交流支援基金」も活用しながら広く留学生を受け入れ、出身国のリーダーとなり得る人材の育成に寄与する。研究及び産官学連携に

ついては、「学校法人千葉工業大学産官学連携協議会」を通じた活動のほか、研究の活性化と産学連携の強化を推進する。加えて、安全保障貿易管理等についても管理体制の整備を進め、更に充実したコンプライアンス遵守体制の構築を進める。

2 管理運営 新志野校舎の再開発計画の一環として、今年度も引き続き新講義棟の建設工事を進め、今年度後期の供用開始を目指す。西浜運動施設での第二武道館建設工事に着手、教育研究活動や課外活動の更なる充実を図っていく。既存建物の維持・管理、キャンパス全体の中長期的な改修の準備。

資金収支

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 平成29年度予算, 平成28年度予算, 差異. Rows include 収入の部 (Student fees, grants, etc.) and 支出の部 (Personnel, research, etc.).

事業活動収支

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 平成29年度予算, 平成28年度予算, 差異. Rows include 事業活動収入の部 (Tuition, grants, etc.) and 事業活動支出の部 (Personnel, research, etc.).

Summary table for 事業活動収支 with 4 columns: 科目, 平成29年度予算, 平成28年度予算, 差異. Rows include 教育活動外収支差額, 経常収支差額, 特別収支差額, 基本金組入前当年度収支差額, etc.

平成29年度予算の概要

- I【教育活動収入】 156.4億円(昨年度158.7億円 前年度比2.3億円減)
II【教育活動支出】 155.3億円(昨年度157.1億円 前年度比1.8億円減)
III【教育活動外収支】 教育活動外収入は受取利息・配当金で2億円を見込む(昨年度比1.1億円増)。教育活動外支出の予定はない。
IV【特別収支】 特別収入は施設設備補助金で3千万円、特別支出は資産処分差額として1千万円を計上した。
V【基本金組入前当年度収支差額】 3.3億円
VI【基本金組入額】 11.5億円(昨年度3.2億円 前年度比8.3億円増)
VII【収支差額】 以上の結果、当年度収支差額は8.2億円の支出超過、前年度繰越収支差額は73億円のマイナスなので、翌年度繰越収支差額は81.2億円の支出超過となる予算である。(主文はウェブに掲載)



ロータリーエンジンで有名な「ルーローの三角形」。そのフランチ・ル

機械系学生の入門書

大学課程 機構学 (改訂2版)

著者 稲田重男・早稲田大名誉教授、森田鈞・同、長瀬亮・千葉工大機械電子創成工学科教授、原田孝・近畿大教授
発行 二オーム社
価格 2484円 (税込み)

ロー(19世紀ドイツの機械工学者)によると、機械とは「抵抗力のある物体の組み合わせであって、その各部はある限定された相対運動を行い、これによって自然のエネルギーをわれわれの欲する仕事に変じるもの」と



長瀬教授

定義されている。機構学はこの「限定された相対運動」を論じる理論体系で、例えばクラック角度に依じたピストンの速度とシャフトの回転数の関係や、カムの輪郭曲線を求める際に必要な考え方を扱うなど、機械工学分野の基礎科目の一つだ。本書は、50年以上読まれてきた稲田・森田の両

早大理工学部教授(当時)の「機構学」の改訂版。長瀬教授が原田・近畿大理工学部教授とともに名著で知られる原著を継承しながら、現在使われなくなった項目を省き、新しい計算法などを加えて充実を図った。リンク装置、カム装置、摩擦伝動装置、歯車装置などを、幾何学的な解法を中心に6章で解説し、章末に演習問題も掲載。機械系初年次学生の学習に適した教科書となっている。(全246)

「中国3大学から留学」20周年

津田沼で記念同窓会



本学と交流協定を結ぶ中国3大学(哈爾濱工業大、吉林大、北京理工大)から留学生を迎え20年経ったのを記念する留学生

同窓会が4月29日、津田沼校舎1号館で開かれた。中国人同窓生とその家族約50人がキャンパスに集結し、思い出を語り



合った写真上。会場には瀬戸熊修理理事長、小宮一仁学長と、指導した教員たち、関係職員らが顔をそろえた。中国人卒業生は、その後日本に在住した人たちと、中国からこの日のために来日した人々。

卒業生代表の富永堅さん(プロジェクトマネジメント学科2001年卒)が開会の辞を述べ、懇親パーティーを開始。瀬戸熊理事長が「中国の大学と交流協定を締結するにあたって、故豊田耕作会長以下大変な苦勞があった。こうした形で美を結んだことは



大野名誉教授が死去

本学名誉教授で元金属工学科教授の大野篤美氏が4月13日、老衰のため死去した。92歳。

大野氏は昭和28年に本学冶金学科を卒業し同年4月、助手として本学へ就任。45年、教授に。高品質な金属材料を生み出す加熱鋳造連続鋳造法「OCCプロセス」の発明で世界に知られ、その



山中評議員死去

本学評議員の山中義隆氏(元オリエンタルモーター取締役兼常務執行役員)が4月10日、死去した。62歳。平成22年2月6日から評議員を務めていた。

技術は今も本保元次郎教授の研究室で受け継がれている。

活躍する 校友

TDKラムダ株式会社取締役
八鳥 佐内さん (56歳)
(昭和58年、経営工学科卒)

電気流れるところ、電源回路あり——この分野で世界的なリーディングカンパニー「TDKラムダ」(本社・東京)の長岡テクニカルセンター長、八鳥佐内さん(取締役)のモットーは「常在戦場」だ。「よいと思ったら即実行するチャレンジ精神かな。新潟県長岡市にある同センターでそう語った。

実家は農家で、高校まで長岡市で育った。かつて田中角栄元首相の地盤だった雪国である。明治維新で幕府側につき、敗れた旧・長岡藩の「米百俵」(目先の窮乏より未来を育てる学校づくり)をエピソードは有名だ。辛抱強い県民性。

「でも自分は少し違う。我慢せず、考えていることをストレートに口にします。相手が上司でも、部下でも同じです。言ったことが間違いなら、すぐ直します」。にこやかな外見から予想できないシンのあるコトバが返ってきた。「大学は東京で」と本学へ。硬式テニス部で4年間を送った。キャンパスで入部勧誘されたとはいえ、それまでプレー経験ゼロ、しかも体育会系の部活へおら飛び込むのは傍目には無謀と映るが、頑張り通した。「毎秋行われる学科対抗の運動会で土木科の11連覇を阻んだんです。うれしくてビールかけしました。ビールは目に入ると痛い」と実感しました。懐かしい一コマだ。



「難しいことに挑む気概ある学生が欲しい」と八鳥さん

「いい！」即実行 海外生産を国内に転換

こなし、ふるさとに工場をもつ「ネミック・ラムダ」(本社・東京)に入社した。同社の創業は日本中が大坂万国博(大阪府)でわいた1970年と比較的新しい。東京を本社に、工場は長岡市内に置いた。経済の拡大基調下、半導体製造など産業(工場)機器、医療、鉄道、金融証券、通信と多方面で電子化は進んだ。モーター、バッテリーなど量産化・小型化に伴い、交流から直流へ変換する電源は省エネ社会のキーデ

140とトップを走る。2009年に長岡テクニカルセンターの長となり、役員には3年前就任した。差し迫った課題は、生産ラインの自動化だ。今までは、国内販売する製品の多くを労働力の安い海外生産に頼っていた。このため為替変動によって輸入価格の振れは大きく、利益が安定しなかった。国内で生産すれば、為替の問題はなくなるが、人件費が高く、コストが合わない。「数年前から生産技術者を育

では、いまの若い部下たちはどう見えるのか。海外赴任の打診に、「『家族がちよっと……』と断るケースもある」と、いささかの戸惑いを隠さない。毎年10人前後を新規採用するが、「やさしいことより、難しいことに挑む気概ある学生が欲しい」と話す。 たまったストレスはスキーやテニスの汗とともに流す。社内結婚の奥さんと3人の子もラケットを握るテニス一家である。

